

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	公園課長	田沼 滋哉
都整-42	実施事業	街路樹維持管理事業	■ 自治事務	主管課 公園課
			□ 法定受託事務	関連課 道水路管理課
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	街路樹の適度な生育等を促し、緑豊かな道路空間の形成とまち並みを整え、市民との協働により適切な管理を行うため。
効果	まち並みを整えるとともに潤いある道路空間を提供し、公園緑地等と連携したみどりのネットワークの形成が図れる。

2 平成29年度に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 街路樹を市民自らが守り育てる活動を行っている街路樹愛護会を支援するため、報償金の支給や花苗の配布を行った。 街路樹の維持管理を委託した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		データ区分	30年度当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯	人口	176,308人	81,763世帯	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	事業の対象者数				事業の対象者数			
運営資源状況	決算値(千円)	14,909	14,567		当初予算(千円)	33,623		
	国県支出金				国県支出金			
	地方債				地方債			
	その他				その他			
	一般財源	14,909	14,567		一般財源	33,623		
	人員配置数	1.5	1.0		人員配置数	1.0		
	人件費(千円)	12,449	7,793		人件費(千円)	7,889		
事業経費運営	総事業費(千円)	27,358	22,360		総事業費(千円)	41,512		
	市民1人当りの経費(円)	155	127		市民1人当りの経費(円)	235		
	対象者1人当りの経費(円)				対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 街路樹愛護会

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	事業へ統合
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				

予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	毎年度、街路樹の育成状況を注視しながら、作業実施路線を選定し、剪定、枝払いを実施し効率的な維持管理を図る。 市民の要望に対応しきれていない状況であり、予算措置が必要である。
	<input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする		
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	路線ごとの高木の剪定については、毎年度1/3程度を実施しており、緊急時や住民要望に対応するには予算規模を拡大する必要がある。また、これまで低木だったものが中木に成長し、処理単価も上昇していることから、平成30年度は予算額を増加させた。
-------------------	---

平成29年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	街路樹の老木化・肥大化に伴い、枯れ枝が落下したり舗装路面が隆起するなど、通行の安全に支障をきたす路線が増えつつある。 病虫害の対応については、住民の健康や自然環境に配慮し極力薬剤散布をしない方針であるが、薬剤散布要望が後を絶たない。	
課題解決のために行った平成29年度の取組	舗装路面が隆起道路については、管理者と連携して、危険因子の排除に努めている。 薬剤の危険性を住民に周知するとともに、樹木に薬剤を直接注入する手法を取り入れ、薬剤の飛散防止に努めている。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	街路樹の老木化が進んでおり、特に枯れ枝の発生しやすいサクラやケヤキなどがある路線については、より歩行者等の安全確保に注意する必要がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	街路樹のある路線のうち、高木(概ね樹高が3.5m以上)がある路線51路線を2~3年に1回の割合で枝の剪定を実施する予定としているので、年度目標を17路線とする。					単位	路線	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
街路樹の適正な維持管理の目安として、高木の枝の剪定路線数を指標とする。	目標値	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0			
	実績値	17.0	18.0	17.0	12.0					
	達成率	100.0%	105.9%	100.0%	70.6%					

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	
-----------------------	--